

No.53

# aaca

2008年9月

20周年記念

シンポジウム  
世界遺産「石見銀山」

特別講演会  
東京スカイツリーの計画とデザイン

シンポジウム  
環境に生きる 建築・美術・工芸

特別見学会  
三菱一号館



フランドルの地図制作者オルテリウスによる地図(1570年頃)の西日本をイメージさせるかたちの中に「Minas de plata」(銀鉱山)の表記が見られる(「別冊太陽石見銀山」より)

## CONTENTS

aaca20周年を迎えて	2
aaca20周年記念事業	3
交流講演会「環境・建築・アート」	4・5
第2回 卯月展	6
第12回 アートパラダイス展	7
第167回 AACAFォーラム「アートは街づくりのソフトウェア」	8・9
トピックス 総会報告・平成20年度 AACAA賞・戸原義信賞募集	10
会員の活動	11
新入会員紹介・会員の移動・他	12

社 団 法 人  
日 本 建 築 美 術 工 芸 協 会

## 20周年を迎えて 会長 中島昌信

只今、aaca設立の1988年の手帳を開いております、確かに6月20日（月曜日）建築会館に設立懇親会があり、私も出席しておりました。その後11月28日に社団法人設立許可があり、12月15日（木曜日）（社）日本建築美術工芸協会の法人設立記念会が多数の名士先輩が集まり盛大に開催されました。その様子が昨日の様に思い出されました。然し出席された方々の多くが故人となられました。それを思うとき確実に時の流れを感じてしまいました。

本年は設立20周年です。各委員会を中心に会員の皆様のご努力で、記念事業も三分の一ほど実施されました。これから実施される事業も社団法人として、協会設立時の理念を継承した事業であると確信しております。会員皆様の力を結集し成功させましょう。



### シンポジウム 世界遺産「石見銀山」

#### A シンポジウム

日 時 11月13日(木曜日)18時30分より  
場 所 千代田区丸の内  
丸の内MYプラザホール

#### 講 演

「産業遺産の持つ意味」

国立博物館産業技術史  
資料情報センター主幹  
清水慶一氏

「世界の中の石見銀山」

島根県太田市教育委員会部長  
大国晴雄氏

#### スライドトーク

写真家 北田英治  
島根県太田市総務部石見銀山課  
林泰州氏

#### B 石見銀山写真展

開催日 11月1日(土)~14日(金)  
場 所 丸の内MYプラザ  
明治安田生命館マイルーム  
写 真 写真家 北田英治氏作品

平成19年 石見銀山が世界遺産に登録されました。日本においては14番目ですが、「産業遺産」としては初めてで、その登録は世界的にも特別の意味を持っています。産業遺産は、人が生きて行くための「人の営みや生業」すべてであり、暮らしそのものです。大航海時代の16世紀、世界の銀産出量の三分の一を占めていた石見銀山は、日本の発展だけではなく、世界経済・文化交流を大きく促進する役割を果たし、明治の産業革命の影響を受けることなく閉山しました。そのため森林資源などを循環利用しようとする日本古来から続く自然との共生の産業思想を体現した遺跡として残っており、それが現在もそこに暮らす人々に受け継がれています。モノづくり集団として豊かな文化景観創造をめざす、当協会として、自然との共生の重要性、持続可能な社会の構築などおおきな意味を持つ、石見銀山のシンポジウムと写真展を開催いたします。



#### 特別講演会

#### 東京スカイツリーの計画とデザイン

日 時 12月3日(水) 16時より  
場 所 建築会館ホール  
講 師 澄川喜一氏(彫刻家・協会副会長)  
中村光男氏(建築家・日本設計会長)  
根津嘉澄氏(東武鉄道社長)  
コーディネーター  
芦原太郎氏(建築家・協会理事)

#### 特別見学会 三菱一号館



明治維新を経て始まった、日本の近代化の先駆である三菱一号館の建設は、明治23年9月、丸の内建築所(三菱地所設計の前身)を設置、三菱社の顧問であった、ジョサイア・コンドルを顧問に、トップ技術者に曾根達蔵を採用、明治25年1月着工、27年7月に竣工した。戦後、日本経済の成長に伴い、昭和42年当時東9号館と称されていた一号館が解体され三菱商事本社ビルとして建設されることとなった。同年文化財保護委員会より、保存に関する要望書の通知を受け一部保存案も検討されたが、今日のように基準法等の法的緩和が無かったため、採用されなかった。

昭和43年解体に着手する際、建築学会からも即時中止と保存に関する要望書の提示があった。三菱商事ビルは同年11月着工47年竣工した。

計画を進める中で、将来の復元は夢としても、建物の実測、写真記録等出来るだけ資料を残した。今日40数年を経て元の場所に復元が実現した事は感慨深いことであり、出来る限りの忠実な資材と技術により明治時代の先達の努力と、職人の技術を研修する機会となったことは現代にとって意義のあることである。さらにaacaがこの三菱一号館の復元を、20周年のテーマとして事業を行うことは大変意義深いことでもあります。

# aaca 20周年記念事業



日本建築美術工芸協会

2008年9月-3

## 今までに実施された記念事業

月	日	記念事業	主催	会場
4	14~20	第二回 卯月展	展覧会委員会	建築会館ギャラリー
5	13	ゴルフ大会	文化事業委員会	東富士CC
	14	交流講演会 桜井 潔氏 (日建設計) 「環境・建築・アート」		コトブキ・DIセンター
	26	aacaフォーラム 清水敏男氏 「アートは街づくりのソフトウェア」	フォーラム委員会	アトリエ・ユニオン
	31	庭園見学会 「何有荘の一日」 金地院・楽美術館・無熾庵見学	かんさい委員会 調査研究委員会	京都市内・他
6	12	平成20年度通常総会・会員交流懇親会	総務委員会	建築会館ホール
	16~28	第六回 アートパラダイス展	展覧会委員会	建築会館ギャラリー
	20	記念セミナー 小菅克己氏 (鹿島建設)	文化事業委員会	三井不動産・別館
7	15	交流講演会 中川俊広氏 (三井不動産) 「日本橋再生計画」		
	25	aacaフォーラム 浅羽英男氏 「皇室建築を造営した技師達」	フォーラム委員会	アトリエ・ユニオン

## これから予定されている記念事業 (このほかにも新たな企画が加わります。)

月	日	記念事業	主催	会場
9	15~23	第二回 aaca+7展	展覧会委員会	建築会館ギャラリー
	22	記念セミナー 可児才介氏 (大成建設) 「ひらめきを呼ぶ空間創り」	文化事業委員会	大成建設 プレゼンテーションルーム
	26	交流講演会 大野 勝氏 (佐藤総合計画) 「中国」~変わるものと変わらないもの、 最新のプロジェクトを通じて~		コトブキ・DIセンター
10	31~1	建築視察旅行 (長野周辺)	文化事業委員会	未定
	22	aacaフォーラム 清水慶一氏 「富岡製糸工場の建築」	フォーラム委員会	アトリエ・ユニオン
	3~16	第七回 シナジー展	展覧会委員会	建築会館ギャラリー
11	13	記念シンポジウム 世界遺産「石見银山」	石見银山シンポジウム 実行委員会	丸の内MYプラザ
	未定	ゴルフ大会	文化事業委員会	麻倉GC (予定)
12	3	設立記念総会 AACA賞・芦原義信賞 表彰式 記念講演会 「東京スカイツリーの計画とデザイン」	総務・表彰委員会 20周年記念委員会	建築会館ホール
1	未定	aacaフォーラム 「イサム・ノグチの母」	フォーラム委員会	アトリエ・ユニオン
2	4	記念シンポジウム 「環境に生きる 建築・美術・工芸」	文化事業委員会	浜松町東京ガスホール
	未定	記念見学会 「三菱一号館の復元」		未定
3	未定	記念セミナー 川瀬俊二氏 (大林組) 「大林組の建築」		

## 20周年記念誌について (広報委員会)

設立記念総会に向け、記念誌の編集を進めております。会員の皆様のアピランスのスペースを用意しております。詳細は追ってお知らせいたします。

環境危機が叫ばれる昨今、日本における発生エネルギーの40%から50%を占めている建築分野における責任はまことに大きい。ギリシア時代arche（始源）のtechne（技術）—architectureとして、人と自然に関わるあらゆる根源的な総合技術として位置づけられていた“建築”。実はart—fineartもtechneのひとつであったことはよく知られているところである。



環境負荷削減のためには“自然の恵み”を見直すことが他にもまして有効である。しかし、さらに重要なのは、人工環境に頼る建築のあり方に改めて反省を促し、“自然”へのまなざしを回復させるきっかけを創ってくれることである。自然と人間の関係を見直すところに本来のアートとの接点が見出せるだろう。ここでは、環境建築の流れを紹介するとともに、現在進めているエネルギー0オフィスへの挑戦の最先端に触れたい。

### 地球の危機

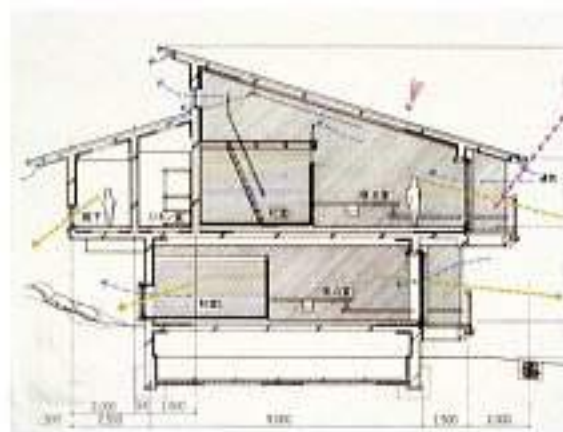
CO2は森や海で吸収され酸素になって循環が成立しているが、現在の地球上の発生CO2はその定着量の倍以上となっており、今のままでは“地球が二つ”必要であるということになる。今具体的な手を打たなければもはや後戻りできないポイント・オブ・ノーリターンが近づいている。

東京ガスアースポートにおける事前共同研究でいち早く提案したように、ライフサイクルでの省エネルギーのポイントは、①負荷は元から取る②自然エネルギーを使うことからスタートする③化石エネルギーの使用に際しては有効なシステムと機器の選択を④寿命の長期化を一残されるに足る魅力を。の4つにまとめられる。とりわけ、この中で自然エネルギーの利用が重要であり、自然を取り込むことは同時に空間の質を本来にもどしてくれる。

### 自然換気・自然採光の徹底



DMMSU大学



軽井沢山荘



旧松下電器産業情報通信センター

フィリピンDMMSU大学では中庭、縁側、大きなひさし空間を展開した。この大学は焼き畑農業による森林破壊を食い止めるため農業と林業を組み合わせる自活を図ろうとする重要な学究の場。停電の多い地域であったことから自然エネルギー中心の展開を図り、地元産のれんがや木ジャロジーを展開。軽井沢山荘でも両面採光、自然通気の可能な断面を展開した。

同時期設計した旧松下電器産業情報通信センターでは、開放タイプのアトリウムを提案し、最大限のコミュニケーションを図るとともに自然光と人工照明の協調や床下ナイトパーシなどを進めた。

このアトリウムは、日本ならではの“自然”を取り込むということで和泉正敏氏による自然石のランドスケープを提案。またコナミ那須研修所では建物を半ば地下に埋め込んで負荷を押しさえながら、自然換気と自然通気の徹底、人々のコミュニケーションの促進をねらったコリドールの提案を行った。

# 櫻井 潔 「環境・建築・アート」

2008年 5月14日 コトブキDIセンター

主催 社団法人・日本建築美術工芸協会 協賛 東京ガス株式会社 株式会社コトブキ



日本建築美術工芸協会  
2008年9月-5

## エコロジカルコアの提案



東京ガスアースポート

東京ガスアースポートでは、二年間にわたる事前共同研究を行い当時考えられる省エネルギーの要素技術の費用と効果の分析をおこなって、“エコロジカルコア”という新しいコアプランの概念を提唱した。これはオフィスの南北二面採光と自然換気を徹底するため、オフィスの北側に従来のコアを分散した形で風と光を通すスペースを設けた新しいコアタイプであった。同時にこのプランによって生まれた風の道は上下階のコミュニケーションの促進にも有効であり、自然エネルギーの積極利用と事前調査・事後検証のPDCを実施したという点で環境建築のひとつの流れを創ったプロジェクトである。

## スルーホールからポイドコアへ

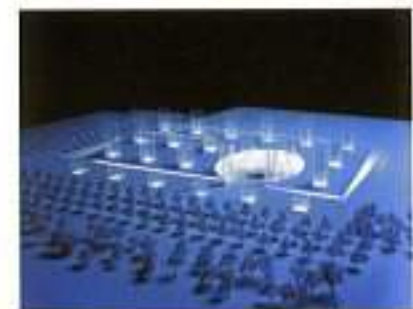
建物全体を風の流れを考慮して組み立て、西向きのアプローチ部に本格的なピースフレーム工法のダブルスキンを展開した東葛テクノプラザは同時にフレキシブルな研究室のあり方を徹底した長寿命建築である。人々の出会いを実現するガラスの空間は同時に自然との出会いの場でもあった。その後国会図書館関西館コンペ案を経て日本科学未来館ではスルーホールという“穴”を空け、大平面の各部に光と風をもたらし、上下階・各ゾーンのコミュニケーションを図ることになった。

さらに超高層である泉ガーデンでもポイドコアと呼ぶ外部空間を基準階平面の中央に設けて、将来の設備更新や仮設動線対応を行うとともに、煙突効果を利用した自然換気を進めることになった。

## 光ダクトの展開

NASDA開発棟ではアルミの鏡面ダクトによって外壁から室内奥深くに自然光を取り入れる光ダクトを大々的に実施。単に省エネルギーというだけでなく室内環境の質が変わることを体験することとなった。また同時に“自然”は変化の幅が大きく均一の性能空間を目指した近代建築の中で捨て去られた揺らぎの環境であった。

中庭-アトリウム-ポイドコア-スルーホールと続く一連の環境建築への提案は、実は自然と建築の接点-フェースを増やす“穴あけ”の手法であり、実は光ダクトもいわば横穴を空けた手法であるといえる。



NASDA開発棟

## エネルギー0への挑戦

最近の政府の発表によると日本は現状から80%マイナスを提言するという。これは重要な数値目標であるが建築では可能なのか。出席者に対してエネルギー0バランスへの挑戦の実例を紹介し、環境への配慮の重要性を共有することになった。

講師紹介：櫻井 潔 1950 神戸生まれ  
日建設計取締役副社長

参加作家の個々の作品発表とともに大きなテーマ「生活や環境の快適さ（アメニティ）」生活空間とのかかわりを提案しました。第2回卯月展企画として「和の空間」をコンセプトに室内外の展示、嗅覚も含めた場の在りようを緊張感ある構成で目指し、露地に見立てたイベント広場に作品のコラボレーション、ギャラリー内に「留まり」を設定して表現しました。



■雨山智子（テキスタイル造形）

大きな空間への作品制作が若い頃から憧れだった。今は時折、小さな建物の狭い廊下や、突きあたりのコーナーなどの気配に心惹かれる。そんな空間に漂う空気感と自分の作品の共存も新たに試みたいことのひとつである。

■伊藤琴恵（立体造形）

光と闇が交差し、どこか畏怖を感じさせる建造物等のある空間に、時空を超えた存在を感じます。立命館大学卒業。富士火災アートスペース展スウェーデン日本交流国際美術展（大阪府知事賞受賞）、日韓現代美術交流展等

■内田滋子（彫刻）

もともと色彩豊かなヴィジュアルデザインやカラーコーディネーションをしています。一方で木の持つ優美さ、力強さ、包容力に魅了され、現代社会の生活の中に、木の自然な美しさや癒しを取り入れられるよう制作しています。

■片岡雅子（七宝）

自然から限らない恩恵を受けている自分や自分を取り巻く物たち。そんな風景からの伝言を植物の強い生命力への憧れや感謝の気持ちで七宝に焼きつけました。アートを媒体にして人と環境が穏やかに共存するユックリズムを目指します。

■佐藤静子（布・染・織）

瞑想の時の中で、ある日突然訪れる一瞬を思う。光から闇へ、音の氾濫から静寂へ、動から静へ。夜の帷が降りる前にモープ色のこの心地よい空の下にもう少しいたいと思う。探し物はまだ見つからない。

■鮫島貴子（立体造形）

「いかに生きるか」…人々が、いつの時代もそのテーマを問い続けてきたように、私もその答えの出ないテーマを考え続けている。今回、新作「未来への階段」と共に約10年前に制作した「門」を敢えて直線上に展示する。私の問いかけは、まだまだ続く、。

■中村弘子（ステンドグラス）

空や水、大地や空気をテーマに制作しています。透明なガラス窓の向こうに街並みが見えるように、絵付けしたガラスを通して、自然の恵みや光に満ちた別世界が感じられるようなステンドグラスを作りたいと願っています。

■野口真理（陶）

「曲る」ということに心惹かれます。用に応じて閉ざされたり開かれたりする空間は、時に応じて臨機応変に対応します。曲りの場は、人それぞれの心理に対応し、融合するものであるのかもしれませんが。

■文月恵津子（銅版画 インスタレーション）

作品は、「さあ、美しい絵を描こう」とか、「美しい詩を書こう」という風には生まれません。日常のほんの小さな精神的印象や現象から動き始める。それらを追い続け、作品は生まれてくる。切り捨てても良いかもしれない事が、やがて環境に居場所を見つけ人々と分かち合う長い時間がやってくる。

■山崎輝子（皮革造形）

日常生活の中から湧き出てくる「五感」を頼りに、制作の炎を燃やしています。「氷水が陽気に溶け天に昇り雨水となって下る」がテーマの今、24節気「清明」の頃の卯月展は私にとってタイムリーな発表の場です。

■渡邊たまえ（彫刻）

可塑性のある土が焼成を経て確固たる「モノ」として姿を現す。私にとって「モノ」とは記憶の中の情景や出会ってきた人たちの思念を具現化したものである。人の心の中での原風景を想起させる彫刻を提示していきたい。



「和の空間」 協力：建築家・長谷川亨氏

テーマ 「この楽しい空間に遊びに来ませんか？」

馬屋 正 アートプロデューサー

気持ちよく、軽やかな作品の群れ。  
 一目惚れしたような感じ。何回見ても楽しい。  
 いつもは殺伐とした空間が生き生きとしている。  
 気持ちよい風が通り抜ける。美しいだけではない。  
 何かが心の中に入って留まる。通常とは違う心地よさ。  
 このようにアートが通常の空間の中に置かれ、親しみやすさや  
 暖かさの中に、ある種の品格が現れてくれればすばらしい。  
 それはまた空間の、会社の、社会の上品さであろう。

山本秀明

この刻みと自分の時間を合わせて  
 過去にタイムスリップしてみませんか？  
 楽しいことがいっぱい、  
 刻まれた線と線の間  
 探すことができますよ。



鍵井保秀

ドキドキ  
 期待？  
 ドキドキ  
 不安？  
 ドキドキ  
 予感？  
 ドキドキ  
 ドキドキ



関 玄達

遊ぶこと、熱中すること。  
 夢中になる、気持ちのゆとり。  
 要とも、重要でないとも思えることが、  
 楽しいことに思える。



川原 昭

都会の空を飛ぶ  
 片方だけの翼  
 宇宙の彼方から来た  
 海の底から来た  
 高山の峰から来た  
 心の翼だ  
 エネルギーが満ちあふれている。



安河内敦子

透明を見るときということ  
 透明を見ると透明の向こうが見える。  
 透明の向こうに何がみえますか？  
 透明の向こうのあなたにしか見えない世界は  
 透明の向こうに透明で存在している。

古川 潤

いしは石、みずは水  
 同じような一日も  
 きのは昨日  
 あしたは明日  
 その物自身だから、  
 あなたがあなた自身だから美しい。  
 きっとその中にあなたにじっくりとくる  
 一かけらもきっとあるはず。



大河内久子

風の通り道  
 ぽっかりと 大きく開いた穴を通して  
 新しい空間がはじまる  
 さわやかな風が通りぬける間合いを  
 感じて下さい。

東京ミッドタウンには、「ハイブリッド・ガーデン」というテーマのもと全部で19点のアートワークが設置されています。アートプロジェクトを構想するにあたり、アートディレクターは、「ジャパンバリュー」をめざす東京ミッドタウン全体を日本文化の精華である庭園に見立てました。「ハイブリッド」とは「混合」という意味であり、日本庭園が様々な芸術文化を育んできたように、東京ミッドタウンでは様々な人や文化が出あい混ざり合い、そこから新しいエネルギーが生まれることをイメージしています。アートはそうした庭園の構成要素であり、混合を促進し、視覚化し、象徴する役割を演じます。

東京ミッドタウン・アートワーク・アートディレクター  
清水敏男

アートワーク総数：19点（彫刻10点、遊具3点、絵画6点）  
アーティスト総数：15名（内女性3名）  
アートディレクター：清水敏男+ジャン=ユベール・マルタン  
アートコーディネーター：TOSHIO SHIMIZU ARTOFFICE



① 安田 侃  
「意心帰」



② 安田 侃  
「妙夢」



③ フロリアン・クラール  
「フラグメント No.5」



④ トニー・クラッグ  
「ファナティックス」



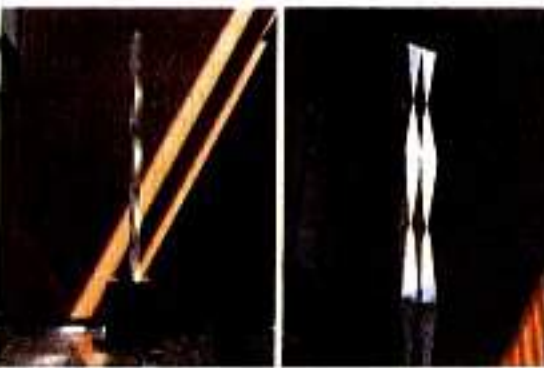
⑤ シラゼー・ハウシャリー&ピップ・ホーン  
「ブルーム」



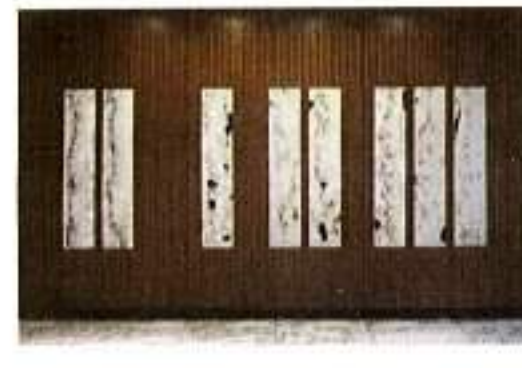
⑥ 五十嵐 威暢  
「予想の海へ」



⑦ 五十嵐 威暢  
「記憶の地から」



⑧ ジャハングール  
「ダイヤモンド・オペリスク」



⑨ 中西 夏之  
「2・1・2・3柵型四群一瞥と擦れ違い」





⑩堂本 右美  
「悠々」



⑪ピーター・ツィンマーマン  
「スコープ」



⑫嶋崎 誠  
「遙かなる記憶」



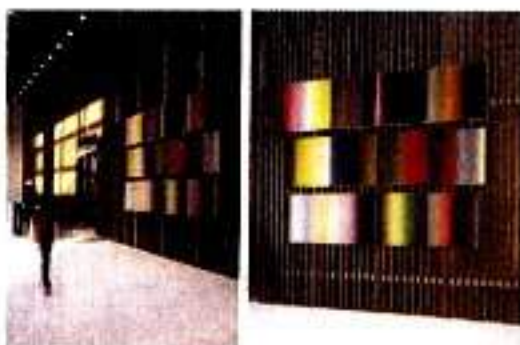
⑬イワタリ  
「No.2W061206」



⑭百瀬 寿  
「Eight Strips: Gold, Violet to Silver」



⑮百瀬 寿  
「NE, Silver, Gold to Platinum」



⑯神谷 徹  
「パッセンジャー」



⑰高須賀 昌  
「SANJIN やまのかみさま」



⑱高須賀 昌志  
「FUJIN かぜのかみさま」



⑲高須賀 昌  
「KAJIN うみのかみさま」

1~4、5(左)、6、7(左)、8~18  
photo by Hirofumi Tani  
5(右)、7(右)、19  
photo by Herbie Yamaguchi

講師紹介

清水敏男



美術評論家  
学習院女子大学教授  
TOSHIO SHIMIZU ART OFFICE 取締役  
1953年東京生まれ  
東京都立大学卒業  
ルーヴル美術館大学修士課程修了  
東京都庭園美術館キュレーター  
水戸芸術館現代美術センター芸術監督  
近年は展覧会やアートイベントの開催、パブリック  
アートのプロデュースを中心に活動している。

## 総会報告

## 平成20年度予算総会

- 1、日 時 平成20年3月25日(木曜日)午後17時30分～18時20分  
 2、場 所 東京都港区芝5-26-20 建築会館1階ホール  
 3、出席会員 253名(内 委任状提出者168名)  
 正会員総数443名の過半を超え 総会は成立致しました。  
 4、議 案 第一号議案 平成20年度事業計画に関する件。  
 第二号議案 平成20年度予算に関する件。  
 第三号議案 20周年記念事業に関する件。

以上各議案について 原案通り決定された。

## 平成20年度通常総会(19年度決算)

- 1、日 時 平成20年6月12日(木曜日)午後18時00分～18時45分  
 2、場 所 東京都港区芝5-26-20 建築会館1階ホール  
 3、出席会員 244名(内 委任状提出者146名)  
 正会員総数443名の過半を超え 総会は成立致しました。  
 4、議 案 第一号議案 平成19年(2007)度事業報告に関する件。  
 第二号議案 平成19年度収支決算書、財産目録及び貸借対照表に関する件。  
 第三号議案 理事辞任に伴う補充に関する件。  
 馬場秀夫理事(株TOTO)の辞任に伴い、中里晋一郎氏(同社)が  
 理事に就任されました。(任期は 平成21年通常総会迄)  
 5、報 告 1、平成20年度予算総会にて承認された20年度事業計画について。  
 2、20周年記念事業について。  
 3、公益法人制度改革に伴う手続きの経過について。  
 6、感謝状贈呈 協会事業活動のため、会社施設提供など、協会へ多大な貢献をされた法人会員に対し  
 感謝状を贈呈。

以上各議案について 原案通り決定された。

## 平成20年度 AACAA賞・芦原義信賞 募集

本年度AACAA賞は第18回、芦原義信賞は第7回を迎えます。AACAA賞は建築、美術、工芸、その他多くのデザイン分野の総合的、協調的な作品、或いは作品群を表彰する制度として着実に成果を上げて来ました。その対象分野は都市デザイン、地域デザイン、ランドスケープデザイン、パブリックデザイン、建築、工芸、絵画、彫刻、環境美術、グラフィックデザイン、ディスプレイデザイン、インテリアデザイン等々、多くの芸術・アート・デザイン領域を含みます。

又、新しい芸術的環境を創造するだけでなく、修景や修復復元という様な制作行為も益々重要な領域になりましょう。

本会はそれらの様々なデザイン芸術分野の創造的環境形成、そして何よりも異なる分野が協力し、複合し、融合して新しい文化環境形成を目指しており、その様な作品を賞の対象としています。芦原義信賞は、本会をつくられた文化勲章受賞者、建築家・芦原義信先生の業績を記念して創設された新人賞です。新しい分野へ挑戦する将来性のある作家を表彰したいと考えております。会員の皆様の多くの応募、そして推薦を期待しております。

## ■ AACAA賞・芦原義信賞選考委員

委員長	澄川喜一	(彫刻家・AACAA副会長・元東京芸術大学学長・島根県芸術文化センター長)
副委員長	岡本 賢	(建築家・AACAA副会長・樹久米設計会長)
委 員	加藤貞雄	(美術評論家・AACAA副会長)
〃	村井 修	(写真家・スタジオムライ)
〃	小倉善明	(建築家・樹日建設)
〃	藤江和子	(インテリアプランナー・藤江和子アトリエ代表取締役)
〃	近田玲子	(照明デザイナー・近田玲子デザイン事務所)
ゲスト選考委員	芦原太郎	(建築家・芦原太郎建築事務所代表・AACAA理事)
〃	川上喜三郎	(王立英国建築家協会会員・建築家・彫刻家)

- 応募期間 平成20年6月2日(月)より同9月26日(金)まで。  
 詳細は 協会事務局へお問い合わせ下さい

20周年記念事業 aacaかんさい「何有荘の一日」 主催 aacaかんさい+調査研究委員会

■日 時：平成20年 5月31日(土) 午前11時～16時 ■会 場 京都市左京区南禅寺46番

南禅寺に隣接し東山を借景に京都市街を一望できる約6000坪の池泉回遊式庭園「何有荘」があります。ここは琵琶湖疏水より流れを導入し、三つの滝と幾つかのせせらぎ、そして大池を満たし、あちこちに茶室が配され四季の移り変わりを満喫することができる、所有者稲畑勝太郎が明治後半に七代目小川治兵衛に作庭させた庭園で、当初は和楽庵と呼ばれた庭園です。昭和28年 宝酒造大宮庫吉長が譲り受け「何有荘」と改名し、関連業界や各種文化活動の面で交友に活用しました。

この由緒ある庭園で、aacaかんさい「何有荘の一日」が開かれました。関西在住の寄神宗美会員が、同じ 林茂会員のアドバイスと、横山晴美さんと友人ボランティアの応援を受けて、この空間をひとり一人が思い思いの時間が過すために、茶席や昼食に趣向を凝らして準備していただきました。参加者は会員22名(かんさい12名)一般28名で計50名。中島会長はじめ、加藤副会長、各委員長も参加されました。朝の内の雨も昼前には上がり、樹木や地肌を覆う草花も生き生きとして参加者の目を楽しませました。京都市役所を設計した武田五一の設計の洋館や数奇屋造りの本堂、数々の離れや茶室が庭園に埋まり、その中で人々は夫々の時を過ごしました。帰路には隣接の金地院を見学、東照宮、鶴亀庭園、大方丈、そして小堀遠州作の茶席八窓席、長谷川等伯筆の水墨猿猴捉月図など堪能しました。最後は「くに荘」で参加者の親睦会が持たれました。翌日はAACA賞受賞の楽美術館視察、無燐庵庭園の見学と、二手に別れ関西の五月を満喫いたしました。



個人会員

高部多恵子会員 個展



高部多恵子 版画 and Other works

第一会場 ※会期中会場にあります。  
 会期・11月4日(火)～9日(日)  
 (PM1時～PM7時・最終日5時まで)  
 会場・Galerie412  
 表参道ヒルズ・同潤館3階  
 (渋谷区神宮前4-12-10・表参道ヒルズ同潤館302)  
 tel/fax 03-5410-0388

第二会場  
 会期・11月17日(月)～30日(日)  
 (AM7時～PM11時) 初日 PM1時～PM11時、最終日5時まで  
 会場・東京アメリカンクラブ・1F玄関ギャラリー  
 (港区高輪4-25-46) 品川プリンスホテル裏  
 tel 03-4588-0381

高部アトリエ・横浜市青葉区荏子田1-6-2 tel 045-901-2009

## 新入会員 (2008年3月~2008年8月入会・敬称略)

## 個人会員

田中一雄	〒171-0033	豊島区高田 3-30-14	Tel.03-3983-4131	(株)GKデザイン機構
神田正勝	〒465-0065	名古屋市名東区梅森坂 3-101	Tel.052-705-0522	神田画廊(株)
大野秀敏	〒113-0034	文京区湯島 4-2-1 杏林ビル 4F	Tel.03-3815-5304	(株)アブルデザインワークショップ
鈴木幸治	〒430-0817	浜松市南区頭陀寺町 330-20	Tel.053-461-3408	(株)ナウハウス
手島 保	〒112-0003	文京区春日 2-22-5-515	Tel.03-3812-2247	手島保建築事務所
村松基安	〒169-0003	新宿区北新宿 4-8-18-504	Tel.03-3362-1915	(株)村松デザイン事務所
中村研一	〒180-0003	武蔵野市吉祥寺南町 1-25-11 E101	Tel.0422-42-1610	(株)中村研一建築研究所
多田裕之	〒761-0823	香川県木田郡三木町井戸 2606-7-2F	Tel.087-898-2256	多田裕之+secondbrain
丸山丹睦	〒154-0004	世田谷区太子堂 4-29-13	Tel.03-6427-7111	
戸室令子	〒104-0041	港区麻布台 2-3-7-201	Tel.03-3560-2359	

## 法人会員

太陽工業株式会社	〒154-0001	代表取締役 龍村光太郎 世田谷区池尻 2-33-16	担当 東京支店支店長 水谷裕一 Tel.03-3714-3330
株式会社 染野製作所	〒144-0051	代表取締役 染野悦彦 大田区西蒲田 7-60-1	担当 常務取締役 福富空男 Tel.03-3735-4891

## 法人会員 担当者窓口変更

(株)TOTO	〒105-0001	代表取締役 木瀬照雄 港区虎ノ門 1-1-28	担当 小坂和弘(担当窓口変更のため) Tel.03-3595-9581
大成建設(株)	〒106-0606	代表取締役 山内隆司 新宿区西新宿 1-25-1	担当 山崎義正(田平氏退職のため) Tel.03-5381-5102
(株)コトブキ	〒101-0062	代表取締役 深沢重幸 千代田区神田駿河台1-2-1	担当 松原和彦(高山氏転勤のため) Tel.03-5280-5608

## 法人会員 社名変更

株式会社 アーネスト空間工房 → アーネストアーキテクト株式会社

## お知らせ

下記委員会にて 委員長の異動がありました。

総務委員会 委員長 宇津野和俊氏から 石田真人氏 (平成20年8月4日 総務委員会にて決定)  
広報委員会 委員長 石田真人氏から 長谷川亨氏 (平成20年8月7日 広報委員会にて決定)

いずれも各委員会の互選を受け、中島会長の承認を受け委嘱されました。

## 会員投稿記事 募集中

## 会員の皆様の

作品紹介、活動報告、  
展覧会、個展等のご案内  
企業の広告、出品展等のご案内  
を 会報に掲載いたします。  
詳しくは事務局にご相談ください。

## 会報について

会報へのご意見 ご希望を  
お寄せください。(広報委員会)

## 発行

社団法人 日本建築美術工芸協会  
〒108-0014  
東京都港区芝5-26-20 建築会館6階  
Tel 03-3457-7998  
Fax 03-3457-1598  
URL http://www.aacajp.com  
E-mail info@aacajp.com

## 編集

広報委員会  
石田 真人 北村 孝昭 瀬川 秀之  
竹生田 正 中村 弘子 野口 真理  
長谷川 亨 本田 宣之 山崎 輝子  
事務局  
伊藤富夫

## 制作協力

美和野印刷株式会社

